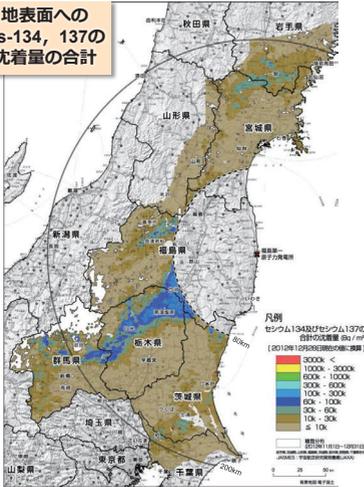


放射性セシウムと放射性ヨウ素の沈着状況

セシウム134、セシウム137 (広域と80km圏内)

福島第一原子力発電所から80km圏外の航空機モニタリング結果
(平成24年12月28日現在の値に換算)

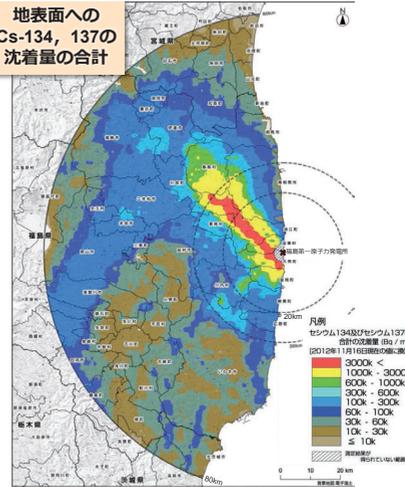
地表面へのCs-134, 137の沈着量の合計



Bq/m²: ベクレル/平方メートル

福島第一原子力発電所から80km圏内の第6次航空機モニタリング結果
(平成24年11月16日現在の値に換算)

地表面へのCs-134, 137の沈着量の合計



文部科学省報道発表 平成25年3月1日

この図は、航空機モニタリングの測定結果を基に、福島県と近県における土壌表層中の放射性セシウムの沈着状況を示したマップです。

2012(平成24)年6月に、降雨などの自然環境による影響を含めた放射性物質の影響の変化の状況を確認するために行われたものであり、マップの作成にあたっては、航空機モニタリングを実施した最終日である2012(平成24)年11月16日現在と2012(平成24)年12月28日現在の値に減衰補正されています。

約1年前の航空機モニタリングの測定結果(2011(平成23)年11月5日)と比べると、空間線量率が約40%減少していることが確認されました。この期間における放射性セシウムの物理的減衰に伴う空間線量率の減少は約21%であることから、福島第一原子力発電所から80km圏内における空間線量率の減少傾向は、放射性セシウムの物理的減衰に伴う空間線量率の減少よりも大きいことが確認されました。

本資料への収録日: 2013年3月31日

本情報は2013年の情報で、事故から現在に至る途中経過の情報です。

関連Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査は怎么样了
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・3章 QA7 航空機モニタリングでは、何を測定しているのですか
- ・3章 QA21 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているというのは本当ですか
- ・3章 QA23 1980年まで行われていた大気圏内核実験で生成したストロンチウム90やセシウム137が、現在でも一般の環境に残っているのは、なぜですか